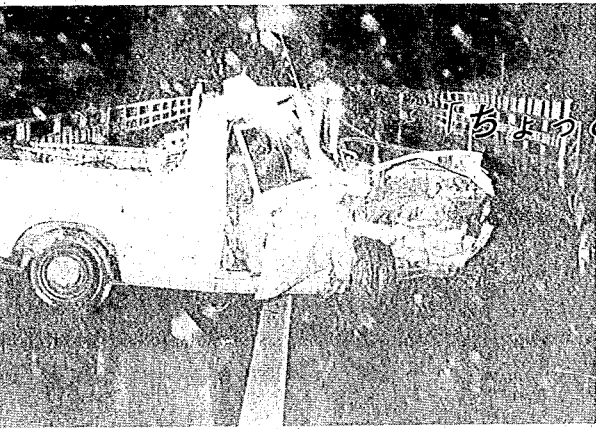




飲酒運転による事故があとをたちません

「ちょっと一杯」が事故のもと 飲酒運転は免許取り消しです



これから年末・年始にかけて、何かとお酒を飲む機会が増えます。そしてそれに伴って、「飲酒運転」が増える時期でもあります。

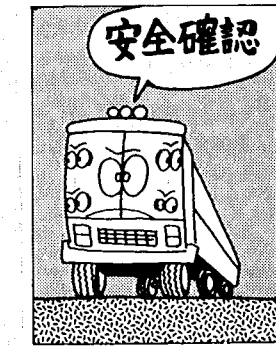
左折時の死亡事故の中でも、大型車の占める割合は、普通車などに比べてグンと大きくなっています。
五十二年中に起きた左折時の死亡事故は、全部で三百二十四件。これを自動車一万台当たりの事故率でみると〇・一件の割合に。そして、二百二十四件の左折事故のうち、大型車の事故は百九十二件で、一万台当たりの事故率は、一件と、全死亡事故の事故率〇・一件の約十一倍にもなっています。

このデータからも、大型車の左折時がいかに危険か、よくわかります。
ところで、大型車の左折事故で死亡した百九十六人がいてみると、自転車乗車中が

事故原因は「左側の死角」

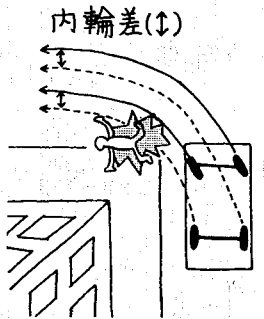
では、なぜ大型車による左折事故が多いのでしょうか。交差点での左折時の危険性については、これまでたびたび指摘されてきましたが、とくに大型車の場合、左後方に運転者からは見えない「死角」の存在が、事故原因の一つとなっています。運転場所から後方を見る場合、バックミラーやサイドミラーで確認します。ところが、車体の長い大型車は、直進中はともかく、左折するときは、ミラーを通した視界が極端に狭くなります。このとき「死角」ができるわけで、この範囲に歩行者や自転車が入ってしまうと、運転者からは見えなくなってしまうのです。

運転者の調べによると、大型車が左折するとき、車によって、後輪が前輪に比べて三メートルも内側に寄るということです。これが「内輪差」といいます。ところが、バックミラーでは、車体の左側一・五メートルの幅しか見えないそうです。



安全確認をおこたりにく
大型車には、確かに「構造上の死角」があり、事故原因の一つになっています。しかし「死角」が左折事故全体に占める割合は「つまり」運転者は左後方を確認したが、

うことなのです。これが「死角」で、大型車の「構造上の欠陥」ともいわれています。自転車利用者、歩行者は、大型車の「内輪差」に十分注意しましょう。



死角内で見えなかった」というケースはごく少なく、一割以内にすぎません。
左折事故のうち、何が一番大きな原因かといいますと、運転者の過失——つまり「安全確認」で、全体の八割以上にも及んでいます。
このことは、死亡者が車のどこに衝突したかをみると、一層はつきります。
最も多いのが、前のバンパーと前輪で、両方合わせると過半数を超えています。これなどは、運転者の「前方安全確認」といえるでしょう。
次いで多いのが後輪で全体の三割弱、車体の側面は二割以下にすぎません。
また、事故を起こした大型車の約九五％は、助手を同乗させていませんでした。
運転者のみなさん、ひとたびハンドルを握ったからには、運転者としての「プロ精神」に徹して、安全運転を心がけてください。

お買物、ご用命は市内で

言葉は何よりのおくりもの。

●お正月には、おめでとう電話を…。ごぶさたしている方にも喜ばれます。

電話のむこうはどんな顔



新津電報電話局



冬の道路は「高速道路」

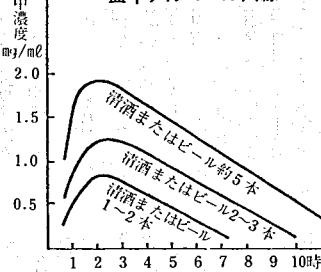
雪道や凍った道路で車を運転するのは、危険でやっかいなものです。
まっすぐ走っているつもりでも、車体が左右にふらついたり、ちょっとハンドルを切っても、急に直角的に曲がってしまふなど、普通の道路では考えられないようなことが起こります。
氷雪路と普通の道路の大きな違いは、なんといっても滑

りやすいことです。ブレーキの踏み方とハンドル操作ひとつで、自動車は運転者の意思通りに動かなくなり、鉄のかたまりへと化してしまうのです。
警察庁科学警察研究所の調査によると、たとえば走行時速四〇キロで急ブレーキを踏んだ場合、乾いたアスファルト道路なら十七・三メートルで停止しますが、アイスバー

ン状態に固まった雪上では五十一・四メートル、氷上ではなんと九十八・九メートルも左右に首を振りながら突っ走り、やっとなります。
この制動距離から考えると、氷雪上を時速四〇キロで走るということは、普通の道路を時速一〇〇キロ以上の高速で走ることと同じといえるでしょう。
冬の道路での急ブレーキ、急ハンドルは命とりです。アツと思つたときは、もう遅いのです。

お買物、ご用命は市内で

血中アルコール曲線



飲んだら車はあきらめて…
よく、こんな話を聞きます。「おれは酒に強いから、少しぐらいなら大丈夫だ」とあるは「飲んでから大分時間がたっているから大丈夫だろう」

でも、ほんとうにそうでしょうか。
一般的に酒に「強い」とか「弱い」といわれますが、時間上では、約二十分「早くさめる」か「遅くさめる」かの差でしかないのです。
左上のグラフは、酔いがどのくらいでさめるかをみたものです。これをみると、ビール一・二本でも、酔いが必要で、時間が必要です。
ですから、「ちょっと酔いをさましてから運転して帰ろう」は、非常に危険なわけでも、飲んだときは、スッパリと車をあきらめることが、自分を守り、家庭を守ることにつながるのです。

メガネのことならご相談下さい



ニコンメガネレンズ

にいつ メガネセンター



野本時計店 眼鏡部

本町3丁目 TEL 2-0070

ボリュームある肉料理専門店

とんかつ
すき焼

箱岩

新津市本町3 TEL 2 4516